



佐賀県立博物館
SAGA PREFECTURAL MUSEUM
佐賀県立美術館
SAGA PREFECTURAL ART MUSEUM

令和7年12月19日

博物館・美術館 学芸課

担当者 野中

内線：3717 電話：0952-24-3947（直通）

E-mail:hakubi@pref.saga.lg.jp

OKADA-ROOM Vol.36 の展示がスタートしました —岡田三郎助 名品選—コレクションの道程—

佐賀県立美術館は開館以来、明治から昭和初期にかけて活躍した佐賀県出身の日本近代洋画の巨匠岡田三郎助^{おかださぶろうすけ}（1869～1939）の画業と人物を紹介しています。

当館の岡田三郎助のコレクション（収蔵品）は、洋画の代表作、名作はもちろん、日本画、素描（デッサン）、版画、また彫刻や工芸品、さらに愛用の品等幅広く、現在、合計250点を数えるに至っています。国内の美術館では質、量ともに最大であり、当館の基幹となるコレクションです。

このコレクションは、昭和45（1970）年、佐賀県立博物館が創設された時から収集が始まりました。昭和58（1983）年の美術館開館以降は、ここが主な展示紹介の場所となり、そして平成27（2015）年7月、専用の常設展示室「OKADA-ROOM」を開設。さらに平成30（2018）年4月には「岡田三郎助アトリエ」の移築復原が実現しました。岡田三郎助の人と芸術を語る全てが、彼の故郷であるここ佐賀に集まっているのです。

当館のコレクションの充実は、多くの方々の協力によるものです。今回の展示では、当館に所蔵された最初の岡田作品である《薔薇》をはじめ、岡田の洋画の名作を展示し、収集についてのエピソードも交えながら、コレクション形成の歩みをご紹介します。ぜひご覧ください。

- | | |
|-----------|---|
| 1 会 期 | 令和7年12月18日（木曜日）～令和8年3月14日（土曜日） |
| 2 開 館 時 間 | 9時30分～18時 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日） |
| 3 休 館 日 | 令和7年12月29日（月曜日）～令和8年1月1日（木曜日） ※令和8年1月12日、2月23日（各月曜日祝日）は開館、 翌1月13日、2月24日（各火曜日）は休館。 |
| 4 会 場 | 佐賀県立美術館 OKADA-ROOM（佐賀市城内1丁目15-23） |
| 5 観 覧 料 | 無料 |



コレクション、最初の1点
薔薇 制作年不詳



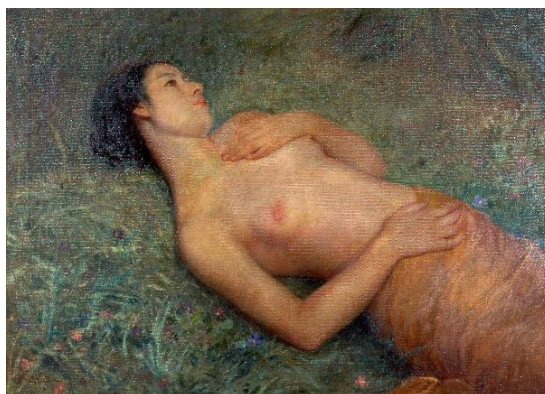
ひっそりと生き続けた、若き時代の逸品

矢調べ 1893（明治26） 佐賀県重要文化財



帰ってきた「まぼろし」の名画

裸婦 1935（昭和10） 佐賀県重要文化財



名品は佐賀に残された

花野 1917（大正6） 佐賀県重要文化財



生涯最大級の風景画

富士山（三保にて）1920（大正9）



「画人」の貴重な自画像

自画像 1899（明治32）

| No. | 作品名 | 制作年 | 材 質 | 寸法 (cm) | 所蔵等 |
|-----|---------------|-----------------|--------------|-------------|---------------------|
| 1 | 薔薇 | 制作年不詳 | 油彩・紙 | 15.3×11.1 | 佐賀県立美術館 |
| 2 | 矢調べ | 1893 (明治 26) | 油彩・ カンヴァス | 72.5×105.0 | 佐賀県立美術館 佐賀県重要文化財 |
| 3 | 花野 | 1917 (大正 6) | 油彩・ カンヴァス | 65.2×90.8 | 佐賀県立美術館 佐賀県重要文化財 |
| 4 | 自画像 | 1899 (明治 32) | 油彩・ カンヴァス | 48.0×37.0 | 佐賀県立美術館 |
| 5 | ぬいとり | 1914 (大正 3) | 油彩・ カンヴァス | 72.7×42.4 | 佐賀県立美術館 |
| 6 | 富士山 (三保にて) | 1920 (大正 9) | 油彩・ カンヴァス | 137.3×197.5 | 佐賀県立美術館 |
| 7 | 裸婦 | 1935 (昭和 10) | 油彩・ カンヴァス | 99.8×65.5 | 佐賀県立美術館 佐賀県重要文化財 |
| 8 | 少女読書 | 1924 (大正 13) | 油彩・ カンヴァス | 44.9×33.2 | 佐賀県立美術館 |
| 9 | 薔薇 | 1931 (昭和 6) | 油彩・ カンヴァス | 45.5×37.9 | 佐賀県立美術館 |
| 10 | 伊豆山風景 | 1935 (昭和 10) | 油彩・ カンヴァス | 65.1×100.1 | 佐賀県立美術館 |
| 11 | 愛用のパレット | | 木製 | 31.0×43.5 | 佐賀県立美術館 |
| 12 | 愛用のイーゼル | | 木製 | 全長 70.0 | 佐賀県立美術館 |

・上記作品の展示とともに、「岡田三郎助映像アーカイブ」を上映します。
(上映時間約30分)

おかださぶろうすけ

岡田三郎助

1869(明治2)～1939(昭和14)

1869年(明治2年)、佐賀県佐賀町(現佐賀市)に旧佐賀藩士石尾孝基の三男として生まれる。幼時に油絵に関心を持ち、のち洋画を学ぶ。黒田清輝、久米桂一郎らとともに洋画団体「白馬会」を創立、東京美術学校の西洋画科の助教授に就任する。また文部省の留学生としてフランスに渡り、画家ラファエル・コランから穏やかで明るい色調の作風を学んだ。帰国後は東京美術学校教授として、官展の指導者として、後進の育成に力を注ぎ、1937年(昭和12年)、第1回文化勲章を受章した。

繊細優美な婦人像を多く描き「美人画の岡田」と呼ばれた。



岡田三郎助アトリエ・女子洋画研究所 (県立博物館東側)

岡田三郎助は、1908年(明治41年)から1939年(昭和14年)まで、現在の東京都渋谷区恵比寿で暮らし、制作に打ち込みました。自宅に隣接したアトリエは木造の洋風建築で、岡田の没後は洋画家の辻永^{つじひさし}が譲り受けました。辻家の人々により長年守られた後、佐賀県立博物館東隣に移築・復原され、2018年度から一般公開されています。2022年には、国の登録有形文化財に登録されました。

このアトリエで岡田の名作の数々が誕生し、またその一室は、彼が主宰した画塾「女子洋画研究所」の教室として使用され、数多の女性画家たちが巣立ちました。

御来館の際は、ぜひアトリエもあわせて御見学ください。